

まぼし 学校だより

12月号

No.03-573



杉並区立馬橋小学校

～ 次への意欲は ～

校長 小澤 伸生

先日の「まぼし音楽祭」では感染症対策を施し、数々の制限にご協力いただきながらも、たくさんの保護者の皆さまにご参観をいただきました。ありがとうございました。これまでの順番から言えば本年度は学芸会の年度でありましたが、合奏を中心とした音楽祭となりました。伸び伸びと文字通り音を楽しむ子供たちの姿を見て、「温かな拍手の賜物」だなどあらためて実感いたしました。重ねて心より感謝申し上げます。

さて、今回の音楽祭のようないわゆる学校行事は、「特別活動」という教育活動に属します。特別活動は、「学級活動」「児童会活動」「クラブ活動」、そして「学校行事」に分類されます。そのねらいは簡単に表現すると、「子供たちが様々な集団活動に、自主的、実践的に取り組み、互いの良さや可能性を發揮しながら、課題を解決し、集団や社会の中で生きていく資質・能力を身に付ける。」ということです。学習指導要領の改定時、よく聞かれた「アクティブ・ラーニング」は、その内容が正確に伝わるようにと、最近では「主体的・対話的で深い学び」と呼ばれるようになっていますが、特別活動においてもやはり、まず自主的、主体的であることが求められていることに違いはありません。まず自らが「やろう」という意欲をもつことが大切なのです。

私たち「人」が何かに挑戦しようという意欲をもつのは、大まかに整理すると、活動に成功した時、単純にその行動自体が楽しい時、もう一つは誰かに自分の行動を褒められた時なのではないでしょうか。そう考えると、学校行事という集団的な活動の中では、表面上全ての子供が成功体験を積むことは難しい部分があります。全ての児童がその活動を最初から楽しめるかと言うと、それもそうでもありません。

頑張っても、途中で失敗してしまうこともあれば、人前で演奏したりするのは苦手、という子も当然いるわけです。やりたかった役割の担当にはなれなかったということもままあります。

では、様々な個性や体験をもつ子供たちが、どうしたら学校行事を通して、主体的に取り組むことができるようになるのでしょうか。我々大人にできることは何なのでしょう。それはやはり子供たちの活動の過程を暖かく見守り、そして励まし、結果だけでなく努力や取り組む姿勢に励ましと賞賛を送ることだと思います。音楽祭後、子供たちが書いた感想の中に次のような一文を見つけました。

「ほんとうはやりたい楽器があったけれど、オーディションで違う楽器になりました。家に帰って、お母さんに言うと、「残念だったね。でもいっしょうけんめい練習しようね。聴きに行くからね。」と言ってくれました。がんばって、とても楽しい音楽会になりました。これからも色々なことにがんばりたいです。」

短い文章の中に、この子が大切なのは結果だけでなく、物事に取り組む姿勢だということをお母さんの一言から学び、そして励まされていることを感じます。最初は少し残念だったかも知れませんが、これは確実な成功体験です。この児童はきっとこの先の学校生活の中で、苦手なことや、思い通りにいかない状況に出会っても、意欲を失わずに、勇気をもって取り組む力を身に付けていくはずで、それが主体性へと繋がり、新たな可能性への入口となるでしょう。

学校行事は子供たちに自主性や主体性を育むよいチャンスとなるものです。馬橋小ではこれからも、学校行事に向けた「過程」を大切にして子供たちを指導していきます。今後とも、地域、ご家庭の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。少し早いですが、